



学校教育目標

か み や ま

ここに学び ここで遊ぶ ここがふるさと上山の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamiyama/>



失敗を成功のチャンスに

児童支援専任 菅原菜穂子

今年も暑い夏でした。39度、40度と聞いても、もう驚かなくなりました。そして、熊本の地震や千葉の豪雨などの自然災害も多くありました。熊本、千葉では甚大な被害が出ていると報じられており、日常生活を取り戻すどころか避難生活を余儀なくされている方もたくさんいると聞いています。被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、上山小の皆さんは、どんな夏休みを過ごされましたか？

毎年、私の夏休みの楽しみの一つは、高校野球です。一球に全力をかける高校球児だけでなく、それぞれのスタイルで応援するアルプススタンドの人達の姿を、テレビの前で、時には現地で観戦し、感動とエネルギーをもらっています。今年は、事前の研究にも力を入れました。高校野球に関する本を読んだり、ネットで地方大会の結果や代表校のSNSを見たりして、ちょっとした解説者気取りで大会を楽しみました。

事前研究で、私の心に残ったのは「負けから学ぶ」ということです。多くの指導者や解説の方が同じような言葉を残していました。夏の高校野球は、地方大会も含め、日本一になる一校をのぞき、ほとんどのチームは負けて終わります。勝った試合以上に負けた試合の理由を突き詰め、そこから練習を改善し、悔しさをエネルギーにして次の勝ちにつなげていくのだそうです。負けは最大の成長のチャンスになる、と。

学校も、同じだと思いました。「負け」はあまりないかもしれませんが、失敗や間違い、うまくいかないこと、「やらかしちゃった」ことなど、学校では日常です。その失敗こそ、成長のチャンス。例えば、漢字テストで100点を目指して一生懸命練習したのに、一問間違え90点だった。返却されたテストを見て、ショックの表情を見せても、すぐにドリルを見直して「ここか。」と納得する子がいます。この子は、もう二度とこの漢字を間違えません。初めてのたてわり活動で、色々と準備をしたのに「全然うまくいかなかった」と打ちひしがれて自分の教室に帰ってくる六年生。違うグループのうまくいったやり方を共有したり、低学年にも分かりやすい伝え方を考えたりして次の活動に備えます。この繰り返しがあるからこそ、下級生の「楽しかった」の言葉に、本当に苦勞が報われ、喜びや達成感を感じることが出来ます。学校でのこうしたエピソードは、正に、失敗から学ぶ姿だと思います。

しかし、時間や状況に余裕がなく、子ども達の失敗や間違いを責めはしないまでも、流してしまうこともあります。もっと言えば、失敗や間違いをさせないように、最初から私の思う正しいことを「こうしよう!」と押し付けてしまうことも、これまでたくさんありました。成長のチャンスを、私は何度も潰してしまいました。

もちろん、成長のチャンスだからと言って、始めから失敗や間違いをねらうわけではないですし、「間違いOK!」と、指導支援なく全てを子ども達に丸投げするのも違います。子どもが、正解や成功を目指して全力で取り組む。その結果、うまくいけば、嬉しいし、達成感も感じるかもしれません。そうなるように、学習や活動の環境を整え、支えていくことが、周りの大人にできることだと思っています。それでも、もし、その挑戦がうまくいかなかったり失敗したりしたら、それを受け止め、そこから学び、成長のチャンスにしていけるように、子どもに寄り添って伴走していくのも、私たちの大切な役割だと思っています。目の前の子ども達が、失敗・間違いを恐れずに、たくさん自分の思うチャレンジができるように、いつでも「大丈夫!」と言える大きな存在でいたいです。

夏休み明けは、大きな行事がたくさんあります。そして、教科学習も深まってくる時期です。上山小の子ども達の「こうしたい」「やってみたい」という思いの強さは、夏の高校球児にも劣りません。その思いが叶えられるように、もし失敗しても、そこからの学びで成長できるように、私も甲子園のアルプススタンド並みの熱さで応援し、時には監督のようにけきを飛ばしていこうと思います。

保護者の皆様も、ぜひ一緒にどうですか？